

令和4年度 大垣市立牧田保育園園評価 (数値は4点満点)

	評価の観点	評価	自己評価 ○成果 ●課題	園関係者評価	今後の改善
明るく元気な子	1日45分以上戸外に出て遊ぶ	3.38	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に戸外に出て、季節に合わせた遊びを取り入れることができた。雨天時はサーキット遊びやリズム遊びをして伸び伸び、繰り返し遊んできたことで体力がついてきた。 ○保育者間で相談し合いながら広い園庭をうまく利用し、体を動かせるよう学年で交代したり、一緒にじっくりと遊んだりしている。 ○夏はテントの下や木陰で遊べるよう安全な環境づくりをし、冬はサッカー、マラソン、鬼ごっこなど寒さに負けず体を動かして遊べるよう保育者が率先して遊びを楽しむ姿を見せた。 ○登降園の際に戸外に出て、遊ぶようにしている。小石や枝、落ち葉等子どもたちと一緒に環境整備もし、園庭で安全に遊べるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に環境が整備されている中で、子ども達が元気に外で遊ぶことは素晴らしい。 ・環境に気配りし、保育者が率先して遊ぶ姿が良い。 ・戸外遊びは自然と体づくりに繋がる。 ・寒くても体を動かす工夫がされ、元気に走り回っている。 ・園庭の築山の活用について工夫と整備を心がけてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・牧田の広い園庭を利用し、引き続き1日45分以上戸外に出て遊ぶ。
	園外保育を行い、地域に親しみを持ちながら体づくりを行う	3.63	<ul style="list-style-type: none"> ○まずは、園庭でよく遊び、徐々に園外へと目を向けていった。自然の変化や地域の方への挨拶など周りに目を向けられるように声をかけている。 ○散歩前には毎回下見に出かけ安全面に十分に気をつけ、計画的に地域の自然に触れながら園外保育を行っている。 ○地域の神社や公園に行き、その環境の中で、思い思いに体を動かして遊ぶことができた。4月に比べると歩ける距離も長くなり、疲れにくくなってきた。 ●地域に関して保育者がわからないところもあるので、下見をしたり、保護者に尋ねたりしながら、体づくりを意識し、さらに距離を伸ばし牧田の様々な地域へ園外保育に出かけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策の中での園外保育は大変だったが、地域を知る上で大切な活動だと思う。 ・十分すぎるくらい良い。 ・異年齢での散歩も素晴らしい。 ・スタンプラリーはよいアイデアだ。 ・スタンプラリーで行ったところを教えてくれ110番の家も探すようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の住んでいる地域を周れるように距離を伸ばし、引き続き園外保育を行う。
	学期ごとに「できたよカード」を実施する	3.63	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な分かりやすい指標で園児も保護者も取り組みやすかった。園でも日常的にチェック項目を意識し、身に付くよう励まし、認めることで園児の自信にも繋がった。 ○約束にちなんだ絵本を準備し、子どもたちが約束を意識できるように発信した。 ○前期の反省をもとに後期は、クラスごとに約束を決めたことで、保育者や子ども達が考え、楽しみながら身近なものとして取り組めた。就学に向けて身に付けたい力を意識することができた。 ●期間が終わると気を付ける意識が薄れてくるので、継続的に確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の自己肯定感を育てる上でとても有効な活動なので、継続してほしい。 ・一年間で成長が感じられる。 ・クラスや自分達で約束を決めるところが良い。先生からのメッセージがシールなのが残念だった。 ・就学に向け、5歳児の習慣を徹底させてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達に合わせたねらいが達成できるよう「できたよカード」を実施する。 ・4・5歳児は項目を子どもと一緒に考えることでより意識できるようにする。
友達と楽しく遊べる子	保育者が率先して顔を見て挨拶や返事をする	3.75	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者が見本となり、視線を合わせながら元気に挨拶することで、恥ずかしがっていた子も少しずつ挨拶できるようになったり、大きな声で挨拶したりする子が増えてきた。また、担任以外の保育者に対しても自分から挨拶できる姿を全職員で認め、声をかけることで子ども一人一人の自信に繋がられた。 ○毎朝、「おはようの歌」や返事遊びをして挨拶が習慣づくようにした。「できたよカード」の約束にしたことで、より意識して気持ちのよい挨拶ができるようになった。 ○保育者が地域の方に挨拶すると、真似して挨拶できる子が増えた。しっかり挨拶できる姿を保護者にも知らせ、一緒に成長を喜び合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が、保育園で会うと元気に目を見て挨拶してくれる。 ・顔を見る度名前を呼んで、大きな声で挨拶してくれることがとても嬉しい。 ・挨拶は本当に大切だと思う。 ・保護者（特に子どもが一緒にいるとき）が手本を示すことが大切で 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任以外の保育者や友達の保護者、地域の方等誰にでも挨拶をする。

		<p>○前期は「おはよう」を中心に挨拶に取り組んだが、生活の中にはいくつかの挨拶があるので後期はそういった挨拶も一人一人ができていくかを見直した。地域の方にも「おはよう」「ありがとう」が言えるのが牧田の良さである。</p> <p>●成長につれ、できるだけ自分から挨拶できるようにする。</p>	<p>ある。</p> <p>・登降園の際、誰にでも元気いっぱい挨拶できる。</p>	
	<p>同年齢や異年齢の友達に関心もてるように互いに刺激しあえるリズム遊びや、運動遊びの内容を工夫する</p>	<p>3.5</p> <p>○週1回キラキラタイムを取り入れ、毎回担当保育者が進めていくことで、それぞれの学年が今行っている体操を共有でき、みんなで楽しむことができた。体操や盆踊りなどで異年齢交流の時間がもてた。戸外でも自然な形で異年齢交流ができていく。</p> <p>○キラキラタイムでは、お互いに担当保育者の話し方や動き方を見ることで、職員間の学びにも繋がっている。異年齢クラスが行った遊びを共に楽しんだり、発達に合わせて変化させたりして遊びの内容を工夫した。</p> <p>○前期の反省をもとに職員間で声をかけ合い、一緒にリズム遊びを行う機会を増やした。未満児は各年齢のねらいを明確にし、分散保育を取り入れた。次年度のクラスに遊びに行き無理なく進級に繋げている。</p> <p>●年長児は、未満児クラスに行き、昼寝起きの手伝いをしたり、一緒に遊ぶ機会を設けたりした。今後も、異年齢交流がより深まるよう、キラキラタイムの充実を図る。</p>	<p>・友達と楽しくできている。</p> <p>・異年齢交流は大賛成である。</p> <p>・交流するにも制限があったと思う。徐々に触れ合いが増えれば良い。</p> <p>・同年齢でも差があるので難しい面もあるのではないかな。</p> <p>・いろいろな友達の名前が出てきて楽しく過ごせる様子が分かる。</p>	<p>・週案会で話し合い、年長児が小さい子にペースアートや手遊び、ふれ合い遊びを行う等交流のもち方を工夫する。</p>
	<p>季節に合わせて動植物を展示したり、育てたりして身近な自然との関わりがもてるようにする</p>	<p>3.38</p> <p>○子どもたちが“育てたい”“調べたい”となるような環境づくり（飼育ケースを手にとれる場所に置く・図鑑を手前に置く等）を心がけたことで、図鑑でどんぐりの種類を見比べたり、霜柱・雪・氷等冬ならではの自然現象に興味をもったりして積極的に遊びに取り入れようとする姿が見られた。</p> <p>○生き物を飼育する中、調理員に野菜くずをもらいにいき、自分たちで餌をあげる体験ができた。</p> <p>○園庭や園外保育で拾い集めた自然物を遊びに使用することで、身近な植物への興味関心が育ち、そこから季節の壁面づくりの導入材料となり、イメージが繋がった。</p> <p>○苗植えから収穫までを行い、育てた野菜を給食で食べることで自然への関心、感謝の気持ちが育ってきた。戸外遊びの前に畑に行き、様子を見たり、一緒に水やりをしたりして旬の野菜を知らせ、生長を楽しみにできる言葉をかけている。今年度は、未満児もさつまいも・みかん・大根等収穫することで、感触を味わい体験することでより興味もてた。</p> <p>○各季節で虫を捕まえたり、自然物を飾ったり図鑑で調べたりする姿があった。</p>	<p>・四季を感じる展示や体験が仕組まれていることが素晴らしい。</p> <p>・いろいろな体験を通して学びができていく。</p> <p>・自然との触れ合い、野菜の収穫体験は良い経験である。</p> <p>・園外保育とセットで考えてほしい。</p> <p>・収穫の話を楽しそうにしてくれた。旬の野菜に詳しくなっており、驚いた。</p>	<p>・引き続き畑の活用・動植物の飼育・自然物を使った遊びの工夫を行い、体験を通して命の大切さを伝えていく。</p>
よく考えて行動する子	<p>毎朝、クラスの子が安心して遊べる時間と場所の環境を整える</p>	<p>3.13</p> <p>○登園前にテラスを掃除したり、落ち葉拾いをしたり、安全で清潔な環境づくりをしている。</p> <p>○指先を使った遊びや季節に合わせた遊びを取り入れ、自分で出し入れしやすい環境を整えた。3歳児はごっこ遊びの時間をもつことで、言葉のやり取りや友達との関わりが増えた。</p> <p>○子どもたちの興味や“やってみたい”思いを取り入れ環境構成を行った。玩具を足したり、引いたり、手作り玩具を準備したりして環境の再構成、時間と場の確保に努めた。</p> <p>●子どもが取り出しやすいよう常に整理整頓を行う。</p> <p>●園庭やテラスの環境整備は、全職員が意識をもって行えるようにすることが課題である。</p>	<p>・子ども達の元気で明るい表情から目が輝き楽しく登園できている。</p> <p>・楽しさと創造性の両立を感じる。</p> <p>・遊びの中で「聞く」「めあてをもつ」「活動する」「振り返る」の流れで指導をされており、その力は小学校の学習にも活かしている。</p> <p>・休日でも園に行きたいという程楽しみにしている。</p>	<p>・全職員が意識をもって行えるよう、職員同士で声をかけ合う。</p> <p>・毎週金曜日に、子ども達と一緒にロッカーを整頓する。</p>
	<p>語彙を増やしたり、自分の気持ちを伝えたりできるような絵本の読み</p>	<p>3.75</p> <p>○年齢や興味、季節に応じて楽しめる内容の絵本を選び、「今日の絵本」として毎日クラスに置き、「どんな話だろう」と期待をもって読んだり、聞いたりできるようにしている。日常的にじっくり読み聞かせる時間を大切にしている。そこから子どもの興味も広がり、真似して読んだり、自分の思いを言葉で伝えようとしていたりする子が増えてきた。</p> <p>○毎月、上石津図書館の本をお借りすることで、絵本の幅が広がっている。また、夢色風船ボランティアの読み聞かせも楽しみにしている。</p>	<p>・小学校でも読書に力を入れている。読み聞かせは大きくなってからも大好き。じっくり聞く力が育っている。</p> <p>・絵本の内容を覚え話してくれる。</p> <p>・本に親しむ子に育ててほしい。</p>	<p>・引き続き、夢色風船ボランティア・紙芝居おじさん等地域の人材を大切に、豊かな心を育て</p>

	聞かせを行う		○子どもと対話もてるようシアター等を取り入れ、子どもからの言葉を引き出すようにした。 ○絵本を通して、保育者とのやり取りを楽しめるようにしていった。		ていく。
	週案会で、遊びが継続、発展していくよう遊びの内容を話し合う	3.58	○今週の子どもの姿を振り返り、次週の活動につながるように PDCA サイクルを考えながら具体的に保育を進めている。保育者間で話し合い、見直しをもって計画しているので、継続して環境づくりができた。さらに子どもの遊びを見て、教材研究を重ね、環境の再構成ができた。 ○クラスの現状を伝え、他のクラスと協力し合って保育できるように発信している。遊びの継続や異年齢の活動を伝え合うことで、交流の場となっている。後期は異年齢交流を広げるため、各学年との時間調整、遊びの計画・発展を考えることができた。年長児が発信した手紙ごっこでは園全体で“遊びで繋がる環境”を整えることができ、少人数園ならではの交流が深まった。		・継続した遊びを意識した環境の再構成を行う。
園運営について	園は、園児の遊びや生活、行事などを保護者に向けて発信している	3.75	○登降園の時間を利用して園生活の様子を話すことで、保護者と共通理解を図っている。保護者が読みやすいようクラスだよりに写真を多めに取り入れ、保育者のねらいも含めてより分かりやすく様子を伝えることができています。 ○コロナ対策を行い、安全に十分配慮しながら運動会・保育参観などの行事を行い子どもの成長を見てもらう機会がもてた。その際、保護者に見てほしいところを必ず伝えるようにした。 ○活動や行事の度にメール配信をして子どもの様子を伝えているので、保護者の安心に繋がった。 ○子ども達が園での遊びの続きを家庭に持ち帰ったり、「できたよカード」の約束に園での話を家庭ですることを取り入れたこと、保育者からだけでなく、子どもからも保護者に発信することができた。	・ホームページ等で公開している。 ・現在の月1回のホームページ更新で良い。 ・ホームページでクラスだよりを見るのが楽しみである。様子がよく分かる。 ・コロナに関するメール配信は保小連携の充実が必要である。	・キッズビューを利用した配信の工夫をする。
	職員は、園児一人一人に合わせて、愛情をもって対応している	4.0	○牧田保育園は少人数であり、全園児に対して全保育者で温かく愛情をもって接している。 ○コロナ禍なので、特に一人一人の表情や体調をよく見て対応している。 ○朝の視診を大切に、その日の子どもの様子から思いを受け止め、子どもに寄り添った言葉をかけることで、気持ちが前に向くよう援助している。 ○一人一人の良いところを大切に褒めることで、自信ややる気が育つような接し方をしている。 ○時間がかかっても気長に待ち、できた時には認め、一緒に喜び合っている。	・十分なくらいしっかりできている。 ・「先生大好き」と言うし、愛情を感じる。 ・各地での最近の不祥事について関心をもち、チェックしてほしい。	・全職員で全園児の保育を行う。
	園は、危機管理体制を確立し、園児の安全に努めている	3.63	○ヒヤリハット記録を記入し、園内で共通理解したり、定期的に危険箇所を話し合ったりして、全職員で意識することで園児のけが防止に繋がっている。 ○園児の安全が守れるよう、命を守る訓練、防犯訓練では、職員間の役割分担を確認し合い、反省を次に活かすようにしている。また、予告なしで行ったり時間帯を変化させたり、異年齢交流時の訓練を行ったりして職員が連携して臨機応変に避難できるようにしている。 ○登園後、必ず玄関の施錠をし、その場を離れる際は必ず他の職員に声をかける。戸外遊びの際は、必ず門が開いてないか確認し、職員間で話し合い子どもの安全を第一に安全確保を行っている。 ●担任・調理員・主任の連携を深めているが、アレルギー児のヒヤリハットがあった。アレルギー対応には今後も十分に気を付ける。	・命を守る訓練、交通安全指導、連れ去り防止教室等できている。 ・車の危険性を理解し、手をあげて横断している。 ・シェイクアウト等、日常的な訓練ができている。アレルギーのエピペンの扱いも行っている。 ・駐在所の定期訪問をしてほしい。	・職員会や終礼等でヒヤリハット報告の共通理解をしたり、研修を行ったりして、全職員の危機管理意識と、安全対応力を高める。
	職員は、保護者や来園者に丁寧に対応するように心掛けている	3.63	○傾聴をしたり、子どもの様子を具体的に伝えるようにしたりして信頼関係を築いていった。丁寧な接し方で、気持ちの良い対応を心がけている。 ○保護者からの質問や相談は、自己判断せず、職員間で確認し合い、正確な情報を伝えている。 ○口頭だけでなく実物を見せたり、ホワイトボードの掲示や見本を添えたりして伝わるようにしている。延長保育児、祖父母送迎児には、なかなか保護者に会えないため、状況に合わせて手紙を添えるなど丁寧な対応を行った。 ○5歳児は、持ち物に関して自分で伝えられるように子どもたちに話している。良いところも課題も保護者と共通理解しながら就学に向け進めている。	・保育者の園児との接し方、距離の取り方、聞かせ方は参考になる。保護者と保育園の良い関係が小学校にも引き継がれている。 ・その日の出来事を教えてくれるし、丁寧に接してもらっている。 ・モンスターペアレントはいないか。	・些細なことも職員間で共有し、コミュニケーションを図る。